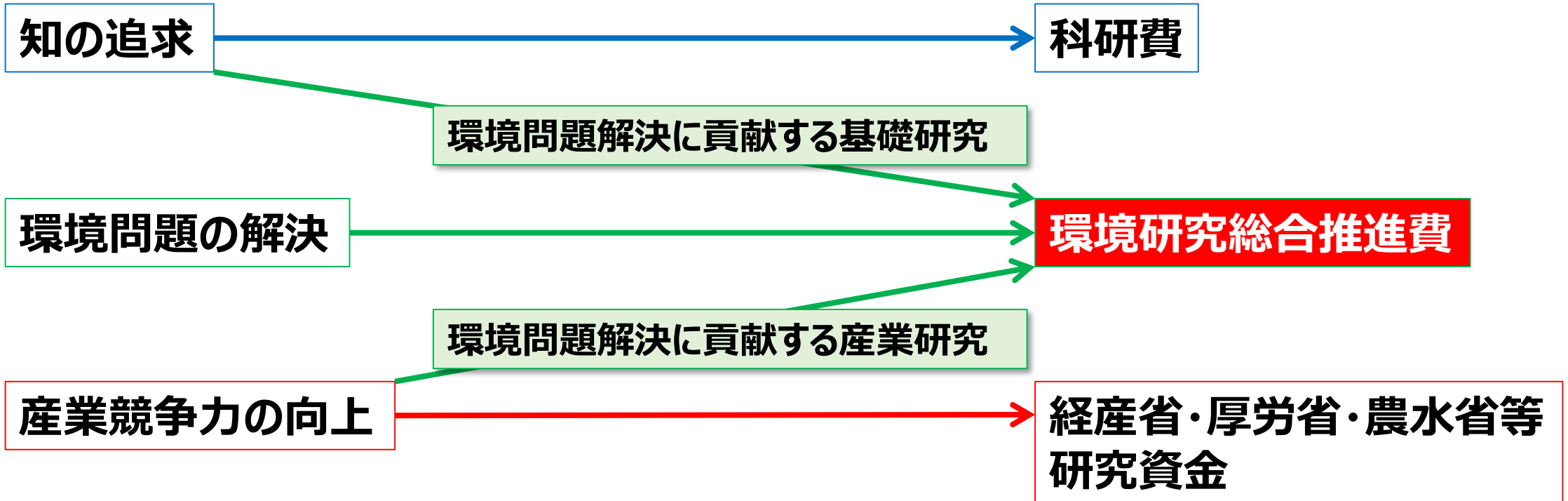


環境研究総合推進費の応募に向けて

－令和7年度新規課題公募要領を読み込もう－

環境研究総合推進費 プログラムオフィサー
小山 次朗

何を研究すべきか



環境問題とはなにか

公募書類には二つの環境問題が示されています

今後5年間程度で重点的に取り組むべき環境分野の技術開発

1. 領域及び取り組むべき課題の設定に関する考え方
2. **重点課題①～⑬**・・・このどれかに含まれることが必須です

(1) 統合領域	5	重点課題
(2) 気候変動領域	3	重点課題
(3) 資源循環領域	3	重点課題
(4) 自然共生領域	2	重点課題
(5) 安全確保領域	3	重点課題

どれかに含まれること!

中長期的な課題

全問題を包括、将来を見越している

5年程度毎に改訂（R7年度はR6年度改訂版で募集）

行政要請研究テーマ（行政ニーズ） 令和7年度新規課題公募において特に提案を求める

(1) 統合領域	5	テーマ
(2) 気候変動領域	4	テーマ
(3) 資源循環領域	5	テーマ
(4) 自然共生領域	13	テーマ
(5) 安全確保領域	26	テーマ

該当しなくても良い!

すぐ答えが欲しい課題

今一番困っている問題

毎年度改訂される

推進費には二つのタイプの研究がある

→ 二つの道筋を通じた環境政策への貢献

(1) 環境政策に必要な科学的知見の集積

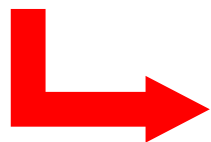
・環境政策の根拠となる科学的知見（発見、プロセス研究、影響評価）等
環境問題対応型研究（一般課題）や革新型研究（若手枠）の多くが該当

(2) 環境問題を解決するための技術開発

環境問題対応型研究（技術実証型）、次世代事業が該当

研究開発の社会実装のためには(1)、(2)の複合も重要

特に社会的側面の研究が必要な部分では、人文・社会科学分野までを含めた幅広い研究提案が必要、多様な分野の知見を総合的に活用



「環境・経済・社会の課題を統合的に解決」

どのような体制にすべきか

一定の採用枠設定

革新型研究開発（**若手枠**） 一人または少人数で核となる技術を開発・解決する

将来、分野をリードする研究（者）を育てる

環境問題対応型研究（**ミディアムファンディング**） 中間くらい

環境問題対応型研究 複数の研究機関に属する研究者が複数のサブテーマ
研究開発、研究展開、そして社会実装まで

現在の日本最高のチームを作るコンソーシアム型研究

規模増大
連続申請



もちろん、トップダウンできるならその方がいい！

革新型研究開発（若手枠）



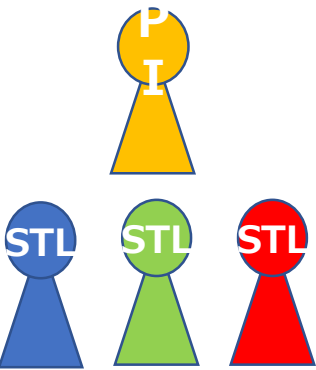
A技術を開発すれば、〇〇が解決するのではないか

夢を語る（論理的に）
研究能力を示す

研究シーズからの**ボトムアップ**、
想定される**アウトカム**

一人又は少人数の研究体制

環境問題対応型研究



〇〇を解決するには
A技術、B技術の開発、社会実装にはC技術が必須

サブ1、サブ2、サブ3にそれぞれ研究者を配置して
統合して〇〇を解決します

全課題の目標達成を束ねる研究代表者のリーダーシップが重要

トータル・計画

コンソーシアム型研究体制

ミディアムファンディングは両者の中間

革新型研究開発（若手枠）に求められることは 新規性・独創性・革新性

＜革新型研究開発（若手枠）の特徴＞

- ▶ 重点課題の環境問題の解決に資する研究
- ▶ **新規性・独創性・革新性**に重点を置いた、若手研究者
- ▶ 研究期間3年以内、**年間研究費600万円以内**と**300万円以内**の二つの申請枠
- ▶ 平成30年（2018年）度より、**一定の予算枠を設けて重点的に採択**。
- ▶ 書面審査のみで採択決定⇒**申請書でのアピールが重要**

ハイリスク・ハイリターンの研究こそ若手枠に応募してください！

人文・社会学的な研究など、多様な研究分野の応募も求めます！

ご自身の研究が環境問題を解決するのに役立つことをアピール！

「若手枠」に加え、「ミディアムファンディング枠」の活用

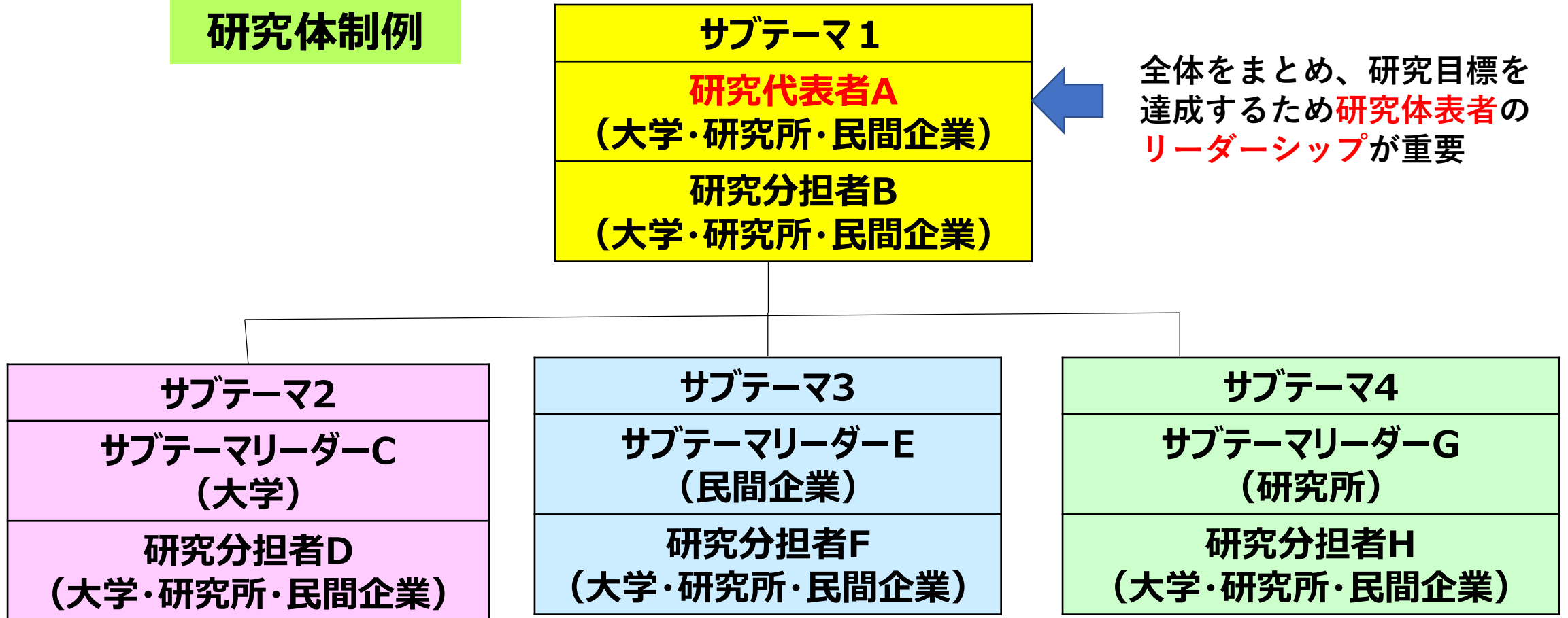
- ・環境問題対応型研究（一般課題）のうち、**年間2000万円以内**の研究申請課題は**自動的にミディアムファンディング枠として審査**される。
- ・若手枠（年間600万円以内）と環境問題対応型課題（年間4000万円以内）の**中間として位置付けて、研究のステップアップがしやすい**中間的申請枠として活用しやすい。
- ・大型の組織でなく、少ないサブテーマ数で、**効率的、集中的**に環境問題対応型研究の**目標達成**ができる可能性がある。
- ・限られている全体予算の中で**数多くの**研究課題を採択する可能性が増大。
- ・自然科学分野だけでなく人文社会科学分野との連携あるいは人文社会科学分野単独も含めた幅広い研究分野からの応募を期待している。

問題対応型研究 コンソーシアム型研究体制

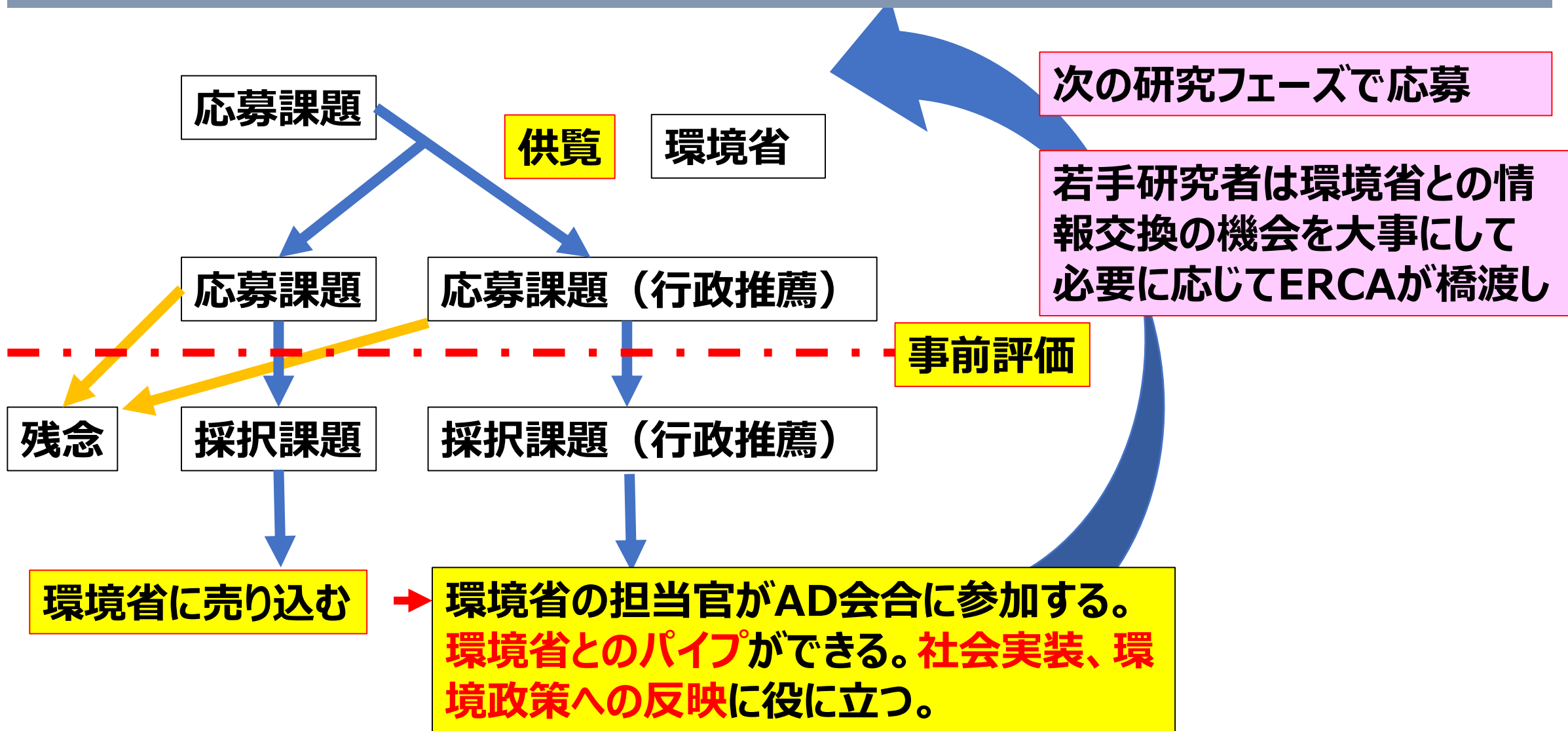
日本最高のチームを作る

研究体制例

全体をまとめ、研究目標を達成するため**研究代表者**の**リーダーシップ**が重要



行政推薦／環境省のアドバイス



審査の観点について

審査は3つの観点（必要性、有効性、効率性）から総合的に行います。

①必要性（環境行政上の意義、科学的・技術的意義）

- 環境政策に貢献できるか
- 既存研究・技術をレビューし、提案研究に新規性・独創性があるか

②有効性（研究目標の達成可能性、環境政策への貢献度、成果の波及効果）

- 目標設定は適切で達成見込みは高いか
- 研究成果（アウトプット）が環境政策に貢献（アウトカム）できるか、
- 技術実証型研究については、社会実装後に社会的・経済的にどのような効果（インパクト）をもたらすか

③効率性（研究体制・研究計画・研究経費の妥当性）

- 研究体制は、研究計画を効率的・効果的に遂行するために適切か
- 研究者の実績・適性は十分か。エフォート（研究の専従率）は低すぎることなく妥当か
- 位置付けが不明確なサブテーマが含まれていないか
- 研究計画に対して、過剰な経費積算をしていないか

環境問題対応型研究（技術実証型）及び次世代事業は**先導性・発展性・実用性**に重点を置いて評価します。
革新型研究開発（若手枠）は**新規性・独創性・革新性**に重点を置いて評価します。

申請書作成のポイント①「必要性」

【環境行政上の意義】

- 環境政策を踏まえ、提案する研究の必要性を示す。
- 重点課題（選択した場合は行政ニーズ）に即した提案であることを示す。

⇒申請書
「2 研究目的等」

★ポイント★

次の計画等は要チェック

- 第六次環境基本計画
- 第6期科学技術・イノベーション基本計画
- 環境研究・環境技術開発の推進戦略

更に関連する環境政策を知るために、
【環境省ホームページの「中央環境審議会情報」から各部会を参照
…最近の環境政策について深掘りが可能；
https://www.env.go.jp/council/b_info.html
例えば、気候変動領域 ⇒ 地球環境部会

【科学的・技術的意義】

- 既往研究・競合技術を比較した上で、新規性・独創性を示す。

⇒ 申請書
「2 研究目的等」「4 研究内容」

★ポイント★

本研究提案に関連する国内外の既往研究のレビュー又は既存・競合技術、類似研究等の概要を整理した上で、次の点をアピールすること。

- 新規性や独創性（先行業績や知見と比較しての強み、独創性等）
- 優位性の根拠（実用化の基盤となる技術シーズとなる特許・ノウハウ等の内容）

申請書作成のポイント②「有効性」

目標設定の適切さ・達成可能性

- 研究目的に対して、何を、どのレベルまで達成するかを示す。
- 研究終了時の到達点としての研究目標を、課題全体および各サブテーマで示す。
- 研究目標を達成するための年度計画を作成する。

⇒申請書

「2 研究目的等」「3 研究目標」「4 研究内容」

★ポイント★

公募要領別紙の「研究目標の設定について」を必ず参照

研究目標に研究方法などを記入しない
研究目標、研究計画には達成度評価が困難な「～を検討する、～試みる」といった表記は用いない

環境政策等への貢献度、成果の波及効果

- 本研究によって見込まれる環境政策等への貢献内容を示す。
- 選択した重点課題に対し、どのような環境政策への貢献ができるか示す。
- 行政ニーズを選択した場合、そのテーマへの貢献内容を示す。
- 開発する技術の実用化・事業化の見通し、環境・社会・経済への影響及び波及効果を示す。
(環境問題対応型研究(技術実証型)や次世代事業は必須)

⇒申請書

「2 研究目的等」「3 研究目標」「4 研究内容」

申請書作成のポイント③「効率性」

研究体制・研究計画・研究経費の妥当性

研究目標の達成可能性が評価できるよう示す。

・サブテーマ構成・連携方法　・研究者の役割・エフォート　・効率的な研究計画・研究経費

⇒申請書

「研究組織(研究代表者及び研究分担者)」「2 研究目的等」「4 研究内容」「5 各年度別経費内訳」

申請書作成のポイント④「特記事項」

特記事項 1：海外研究機関との研究連携について

本項目に該当しない場合は「記載事項なし」と記入する。

★ポイント★

海外の研究機関が独自の研究費で実施している研究と国際共同研究を実施し、本研究に優れた効果をもたらすと思われる場合、加点を考慮する。

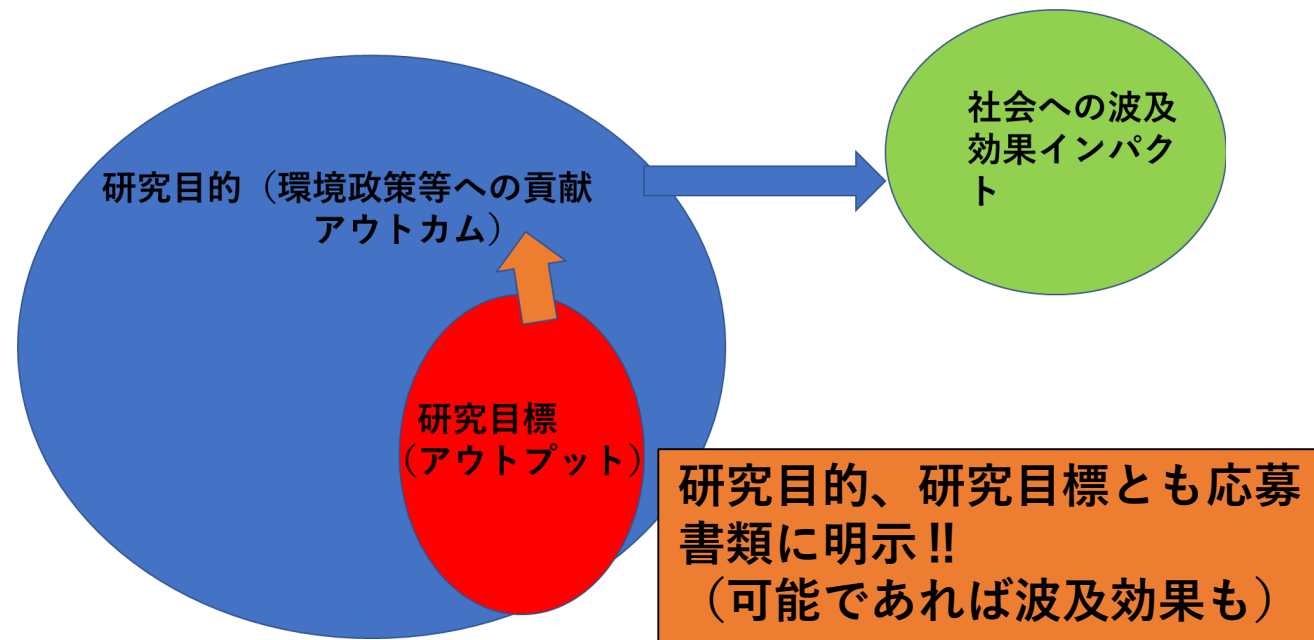
特記事項 2：多様な分野による知見の活用が環境政策への貢献・反映の促進にもたらす効果

本項目に該当しない場合は「記載事項なし」と記入する。

★ポイント★

人文・社会科学分野の研究課題や自然科学分野から人文・社会科学分野までの多様な知見を総合的に活用した研究を期待している。

「アウトプット」「アウトカム」 「インパクト」



研究開発の直接の成果（アウトプット）から生み出された ➡ 研究目標

- ・○○を開発した。○○を解明した。その結果、研究目標が達成できる。

研究目標に試験方法などを記す必要はない。

環境政策等への効果（アウトカム）や ➡ 研究目的

- ・環境省事業に使われた。法律制定に使われた。国際条約に使われた。
- ・企業に使われた。地域行政、社会に普及した。国民の意識改革につながった。

波及効果（インパクト）を確認することも有益である。

意図する目的を超えた効用

背景、目的、目標の関係

背景：

- ・国際条約等
- ・法律
- ・社会情勢 熱中症 ヒグマ ヒ素噴出等事件

目的：環境政策に〇〇という問題がある。
それを解決する

目標：そのために、第一段階として、
〇〇という手法で
中核技術を3年で開発する。

背景：

我が国はスポーツ立国を目指す。
中でも〇〇スポーツは国際的にポピュラーであり、その**成功**が我が国の**ステータス**を高め、**経済効果**をもたらす。

目的：**世界ランキング上位国**になり、
〇〇スポーツの国民的な**発展**を図る。

全体目標：**3年後にWC予選突破（Best 16）**を達成し、
〇〇スポーツの**認知度**を向上させる。

サブテーマ1 目標：〇〇**理論**に基づき選手を強化する。

サブテーマ2 目標：選ばれた選手の能力を組み込んだ戦術を想定される**複数のシナリオ**に合わせて作成し、練習試合を通じて戦術の習熟を図る。

サブテーマ3 目標：**マスコミ**や**SNS**を通じて認知度の向上を図るとともに、認知度の**指標**としてSNSの情報量を用いる方法を**開発**する。

良くない目標の書き方

達成したかどうかわからないのはダメです。

目標は行動の目標ではなく、成果の目標です。

○○について検討する。

○○に着手する。

○○を試みる。

→ ○○について検討し、××を明らかにする。

成果でなく、計画を書くのもダメです

○○を調査する。

○○を解析する。

○○を収集する。

→ ○○について調査し、××を明らかにする。

委託費であること

申請書を基に研究計画書を作成し、契約します。
研究計画書に書かれている研究目標を達成していただく委託契約です。

研究計画書は契約なので、**許可なく勝手に変更することはできません。**

特に研究目標を変更することはできません。

研究代表者、サブテーマリーダーの変更は基本的にできません。

所属の変更、やむを得ない理由（天災地変など）による計画の変更は手続きを踏めば可能です。
ライフイベントによる変更はもちろん可能です。

まずチェックして頂きたい情報源

環境再生保全機構（ERCA）ホームページ

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 公募情報> **公募要領・応募様式等（令和7年度）**

https://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/r07_koubo_2.html

【公募要領】

- ・環境研究総合推進費令和**7年度**新規課題公募要領
必要なことはほぼ全て書いてある！

【別添資料】

- ・（別添資料1）令和7年度新規課題に対する行政要請研究テーマ（行政ニーズ）について
※推進費における研究・技術開発の公募に当っては、エネルギー起源CO₂の排出抑制を主たる目的とした研究提案は公募対象外とします（公募要領P4）

【応募様式】

- ・公募区分ごとに応募様式が異なる

次にチェックして頂きたい文書（環境政策への貢献とは）

『環境研究・環境技術開発の推進戦略』（ほぼ5年毎に更新）

環境基本法

↓（環境保全に関する施策の基本）（国、地方公共団体、事業者及び国民の責務）

最新的环境基本計画 第6期科学技術・イノベーション基本計画

↓ ↓

環境研究・環境技術開発の推進戦略（令和6年8月23日 環境大臣決定）

第3章 今後5年程度で重点的に取り組むべき環境分野の研究・技術開発

1. 領域及び取り組むべき課題の設定に関する基本的な考え方
2. 重点的に取り組むべき課題（重点課題①～⑯）の具体的な内容・・・中長期的（必須）

- （1）統合領域
- （2）気候変動領域
- （3）資源循環領域
- （4）自然共生領域
- （5）安全確保領域

重点課題の〔研究・技術開発例〕を
行政要請研究テーマ（行政ニーズ）（任意）
・・・環境省が提示、短期的と混同しないように注意してください！

ご清聴ありがとうございました

参考資料

応募課題の採択後は・・・

研究代表者のリーダーシップ

研究代表者のリーダーシップで進行管理を行い、研究目標を達成する

- ・採択
- ・評価委員の条件等により研究計画を修正→契約
- ・KO（キックオフ）会合で全体の意思統一
- ・毎年のAD（アドバイザリーボード）会合で進行管理
- ・中間評価、最終評価に向けて進行管理
- ・研究目標を達成
- ・環境省と意思疎通→アウトカムへの道筋を作る

毎年度の研究管理

AD会合（年1回以上開催）

- ・進捗状況の報告
研究計画に対する遅延の有無。遅延があればその原因と対処方法等
- ・今後の研究の進め方の検討
- ・研究者典型のための議論
- ・アドバイザー・環境省担当課室・POとの質疑応答
アドバイザーの総合コメント
環境省の総合コメント
POの総合コメント
- ・ERCA事務局からの連絡
議事録（実質議事概要）を開催後2週間以内に提出していただくよう依頼

若手枠課題は若手研究者への支援強化として自己点検シートがあります。

アドバイザーの役割

アドバイザーは、当該分野や関連分野に見識があり、研究開発の全体像を俯瞰し、**広い視野から研究及び研究成果の環境政策への貢献等について適切に助言できる方**とします。原則 2 名から 4 名。

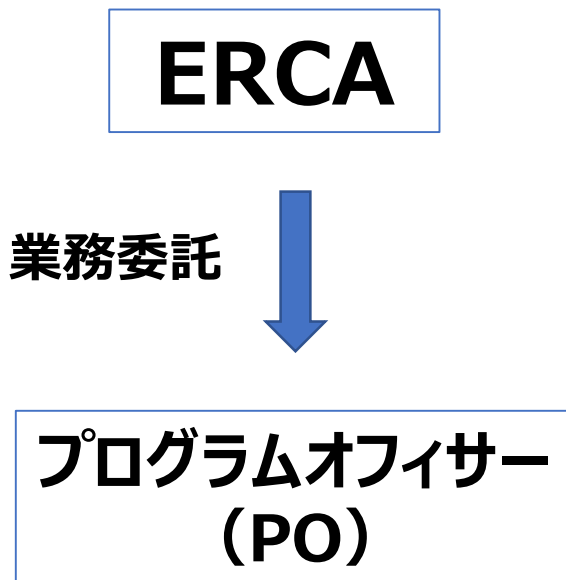
仲間内をアドバイザーにするのはもったいない！

- ・著名な先生
 - ・アウトカムに関わる方（環境省職員は除く）
- など、タイプの異なるアドバイザーを選ぶのもよいでしょう。

POの役割

- ▶ ERCAは、推進費の基本方針の提示や研究成果の政策への反映を行う環境省、**研究内容・進捗管理の確認、研究部会における評価結果を反映するための助言等を行うプログラムオフィサー（PO）**と連携。

POの主な業務＋臨機応変



- ① 研究計画書の確認及び助言
- ② 研究の進捗状況把握
- ③ 研究代表者相談窓口
- ④ 行政貢献の成果となるように、改善のアドバイス及び環境省との橋渡し
- ⑤ キックオフ（KO）会合、アドバイザリーボード（AD）会合等への出席
- ⑥ 革新型研究開発（若手枠）に係る研究管理及び支援

**研究代表者の
リーダーシップのサポート**

若手研究者のサポート

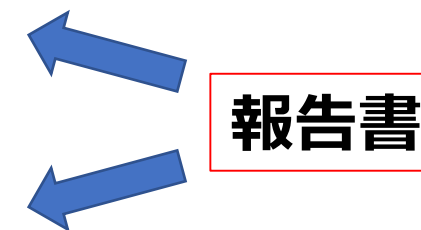
環境研究総合推進費 事務処理説明書 研究推進編（令和6年度）より

中間・事後評価のポイント

研究目標を達成するのが契約です。

中間評価：研究目標が達成できそうか？

事後評価：研究目標を達成したか？



研究目標を自己都合で変更することはできません。
申請時によくお考え下さい。

○○を検討する、○○を目指す、○○を解析する などにはよくありません。
○○を検討して最適な手法を提示する、○○を解析して○○を明らかにする、
など、達成できたかどうか評価できる研究目標をたててください。

令和6年度から若手枠の評価は書類審査のみ